

1. 愛は決して絶えることはありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。というのは、私たちの知っているところは一部分であり、預言することも一部分だからです。完全なものが現われたら、不完全なものはずたれます。(13:8-10)
  - a. 御霊の現われのうちもっともすぐれたものは愛である。愛は絶えることがない。愛は自分の力で生み出せる単なる人間の美德ではない。それは愛である神からくるものであり、それが本当の愛の根源である。私たちのうちに聖霊が働かなければ神の愛はわからない。
  - b. それ以外の御霊の現われはいずれ終わりを迎える。完全なものが現われたら不完全なものはずたれる。私個人的には完全なものはまだ来ていないと思う。それゆえ今はまだ異言や知識、預言などの御霊の現われが有効な時代であると思う。
  - c. 私は愛そのものがもっともすぐれた御霊の現われだと信じているが、同時に私たちが人を愛する時、もっともすぐれた御霊の現われが生み出されるとも信じている。イエスは人々を癒された時にあわれみに満ち心を動かされた。
2. 私が子どもであったときには、子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どものことをやめました。今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。(13:11-13)
  - a. もう一度「完全なものが現われる」という意味について考えてみよう。パウロは“再臨”あるいは“聖書ができた時(新約聖書が編集された時が「完全」の時だと考える人々もいる)”など具体的な時は述べず、二つの例 — 子どもと大人、鏡に映るものと顔と顔を合わせて見るもの — を挙げて「完全なもの」を説明している。
  - b. いずれ賜物という形での御霊の現われは終わる時が来る(おそらく必要がなくなるので)。そしてその時は子ども(幼児)と大人(おそらく50歳前後)の違いに例えられている。
    - i. 何かしようとする時や欲しい時に「若すぎるから」「未熟だから」だめだと言われて喜ぶ人はいないだろう。しかし実際には子どもが大人の言葉、考え、論理を理解できないのと同様、私たちも霊的にはまだ完全ではないので、何が不足し何が必要なのか本当に理解することはできない。
    - ii. もしアブラハムが今、地上での人生を振り返ったら、当時よりももう少し納得できるであろう。同様に私たちも通って来た道を後から振り返った時、神が共にいてくださった旅路をより深く理解し感謝することができるだろう。
  - c. 「完全なもの」とはまた、鏡に映った姿と顔と顔を合わせて見るものの違いにも例えられている。二次元の映像と、実際のものを見るものの違いである。
  - d. 私たちがゴールに達するには、今自分がどこにいるかを把握することが不可欠である。